

図書館だより



武雄高等学校 図書指導部

令和2年10月16日発行

冷たい風が吹くようになり、秋の訪れを感じられるようになりました(*´▽`*)今回は、2年生の図書委員がクラス読書会・芸術鑑賞会の案内をします(^_^)



《クラス読書会について》

クラス読書会が11月5日(木)、11月10日(火)の2回に渡って行われます。そこで今回はテキストの紹介をします。

<1年生>

『螢川・泥の河』宮本輝【著】 新潮文庫



土佐堀川に浮かんだ船に母、姉と暮らす不思議な少年喜一と小二の信雄の短い交流を描いて感動を呼んだ太宰治賞受賞の傑作「泥の河」。北陸富山の春から夏への季節の移ろいの中に中三の竜夫の、父の死と淡い初恋を螢の大群の美しい輝きの中に描いた芥川賞受賞の名編「螢川」。

<2年生>

「李陵・山月記」(弟子) 中島敦【著】 新潮文庫



春秋時代の後期。魯という国に武勇を好み、質実剛健な子路という人物がいた。子路が賢者の噂の高い孔子を辱めてくれようと考えて、孔子を訪ね、逆に学の必要性を説かれ、弟子になる。子路は孔子を尊敬していたが孔子は子路に手を焼いていた。情熱家の子路がようやく五十を過ぎて、衛という国につかえ、三年後に来てみた孔子から、感嘆されるほどの善政を行った。けれど、政界の大黒柱の死から内紛が起こり、子路は巻き込まれ、刺客二名と戦って殺される。子路の屍が塩漬けになると聞くと、孔子は塩絶ちをして悼んだ。



《芸術鑑賞会について》

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、芸術鑑賞会が来年度に延期になりました。その代わりに、2019年に佐賀県で開催された全国高校総合文化祭において上演された演劇「蒼天の翼」の鑑賞を、10月16日(金)に1・2年生の各教室にて行います。





◇第 43 回全国高校総合文化祭(2019 さが総文)についての紹介

『創造の羽を広げ、蒼天へ舞え バルーンの如く』という大会テーマのもと、2019年7月27日から、8月1日の6日間、全国から約2万人の高校生が集まった「全国高校総合文化祭」が佐賀県で開催されました。県内の生徒実行委員84人が中心となって、さが総文を「佐賀の高校生にしかできない大会にする」と誓いを立て約2年間、精一杯活動しました。支えてくれる方や共に頑張る仲間のありがたさに気づくことができる、高校生にとって非常に意味のある大会となりました。

♪さが総文 基本データ♪

- ・開催された部門…全25部門（総合開会式、パレード、演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・パントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学、特別支援学校、ボランティア、茶道、郷土研究）
- ・参加者数…約2万人
- ・観覧者数…約9万人
- ・運営スタッフ…生徒と教員あわせて約7000人

☆武雄高校生のさが総文での活動☆

- ・エントリーした部門…美術・工芸、囲碁、放送
- ・生徒実行委員をはじめ、各部門の運営スタッフに多くの生徒が参加。
- *武雄市文化会館では、日本音楽部門・郷土芸能部門が行われ、全国から高校生が集まった。



◇演劇「蒼天の翼」について

- ・佐賀市で行われた総合開会式（参加者：約1500人）にて上演。
- ・ミュージカル仕立ての演劇。
- ・キャストは佐賀県内の演劇部以外の高校生15人で、この15人の生徒は2018年7月に行われたオーディションで合格した。
- ・劇に込められたメッセージは「未来を創造し、さらに現実を創造していくのは自分たち。」
- ・キャスト15人は、佐賀の歴史上の人物をモチーフにした人物を演じ、三重津海軍所などを舞台に物語を紡ぐ。
- ・佐賀の幕末、維新期の偉人をイメージした登場人物も登場。

☆佐賀の七賢人☆ \知らないともまずい!?! /

- ①鍋島直正（佐賀藩10代目藩主。教育に力を入れ、優秀な人材を育成）
- ②島義勇（北海道の開拓、札幌のまちづくりに貢献）
- ③佐野常民（三重津海軍所にかかわり、のちの日本赤十字社を創設）
- ④副島種臣（外務大臣として活躍。書家としても有名）
- ⑤大木喬任（日本で最初の文部科学大臣）
- ⑥江藤新平（日本で最初の法務大臣）
- ⑦大隈重信（総理大臣を2度経験。早稲田大学を創設）